



株式会社
IHI エアロスペース
代表取締役社長

石井 潔

人類の夢の実現と
社会の発展に貢献すべく
私たちは挑戦を続けます!!

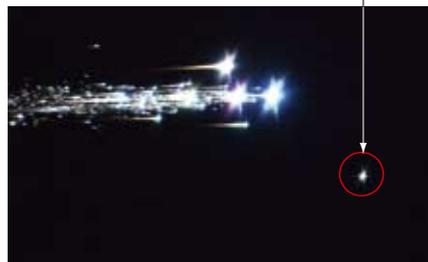
株式会社 IHI エアロスペース (IA) は、2010 年 7 月 1 日をもって、設立 10 周年を迎えました。この記念すべきときに、これを祝うかのごとく、IA が再突入カプセルで開発に関わった「はやぶさ」の奇跡の帰還が成功いたしました。

IA は、2000 年 7 月に日産自動車株式会社 (日産) の防衛宇宙事業を継承し、2003 年 4 月には IHI の宇宙事業部門を統合し、常に独創性革新性に挑戦しながら、今日の姿まで発展してまいりました。

2009 年は、IA にとっても、また日本の宇宙産業界全体にとっても、極めて意義深い年となりました。6 月には、宇宙基本計画が策定され、国として宇宙の活用をさらに図るとともに、宇宙関連産業の成長に向けた取組みを開始しようとしています。7 月には、国際宇宙ステーション (ISS) の日本実験

棟「きぼう」船外実験プラットフォームおよび船外パレットがスペースシャトルによって打ち上げられました。船外実験プラットフォームは IHI、船外パレットは日産が開発を担当していましたが、統合後はともに IA で開発が進められました。20 年の長きにわたるプロジェクトを無事終わらせ、IA 発足 10 年目にして、「きぼう」の完成に貢献できたことは、両者の事業統合の象徴として大変うれしく

再突入カプセル



大気圏に突入した「はやぶさ」と再突入カプセル ©NASA

思っております。

「きぼう」の完成に引き続き、9月には、宇宙ステーション補給機（HTV）がH-IIIB ロケット初号機で打ち上げられ、ISSとの正確なランデブーやドッキングなどの高度なミッションを完遂しました。日本の宇宙関連技術の高さを国際的プログラムのなかで大いにアピールできたと考えています。IAは、HTVの推進系や曝露パレットとH-IIIBの固体ロケットブースタなどを担当し、これらのプログラムの成功に貢献しています。

こうした成果を踏まえ、次の10年を目指し、社員も参加して新たなビジョンを制定しました。

今回、ここで紹介させていただきます。

小さな「ペンシルロケット」とともに生まれ、事業統合を経て大きく成長したIAの「人財」が、



当社の製造拠点である富岡事業所は、事業内容がうかがえるロケットの形をした敷地をもつ事業所であり、夏は緑、秋は紅葉と自然に富む富岡市に位置しています。

将来にわたって『財（たから）』であり続けるために、「常に誇りとチャレンジ精神をもって、生き活きと働くことができる企業を目指していきたい」と決意を新たにす所存です。

皆様のご支援ご協力をよろしくお願いいたします。

IA VISION 2020

IAの目指す姿

- 私たち IHI エアロスペースは、
- ◆ 独創的、革新的なものづくり力をもって、安全、安心、豊かな社会の形成に貢献していきます。
 - ◆ 世界トップレベルの技術を追求し、グローバルな企業を目指します。
 - ◆ 従業員が常に誇りとチャレンジ精神をもって、生き活きと働くことができる企業であり続けます。

事業目標

システムインテグレーション事業の拡大

- ◆ 中小型ロケットシステムの開発を推進し、安定的な打ち上げサービスを提供する。
- ◆ 日本の安全保障に寄与する、独自のシステムおよび装備品を実現する。
- ◆ 技術の限界に挑戦し、月・惑星探査、宇宙環境利用等の国際プログラムに参画する。

推進系の国際的事業展開

- ◆ 固体・液体推進系の分野で、世界水準の競争力をさらに強化し、国際的な事業展開を図る。

新たなマーケットの創出に向けた新事業への取組み

- ◆ IAの固有技術を発展させ、IHIグループとの連携により、新たなマーケットを創出する。